はじめのいっぽ 令和5年度 2月号

令和６年１月 31 日
認定こども園
東野田ちどり保育園
東野田ちどりキッズ・庁舎内
江川　永里子

　４年に一度の閏年です。

地球は、太陽の周りを 365 日かけてまわっています。(365 日＝1 年)

でも、4 年の間に 1 日分だけズレが起こってしまいます。

そのために、4 年に一度 2 月の日数を 1 日多くして 29 日にしたのだそうです。

黄色帽子のゆめ組さんとは、1 日多く過ごせますね。

まもなく巣立ちの日、卒園の日を迎えようとしています。

運動会のテーマ「どの色もすてき～はばたこう～」にあげました様に

自分の力を信じて進んで欲しいと思います。

一日一日を大切に丁寧に過ごし、「春」の訪れを待ちたいと思います。

～アドラーより～

子どもの課題を共同の課題にする(1)

子どもの課題は、本来は子どもが自分の力で解決しなければならないものですし、親が口を出したり手伝ったりしてはいけないものです。しかし、子どもの課題を親子の<共同の課題>にして、親が手伝うことができる場合が 3 つあります。
この章では、そのうち 2 つを学んで、もうひとつの場合は第5章で学びます。

1. 子どもから親に頼んできたとき

子どもの課題は、原則としては子ども自身に解決してもらうことが望ましいのです。もし自力でうまく解決できれば、子どもは「私は能力がある」と感じるでしょう。かわりに親が解決してしまえば、子どもは「私は能力がない」と感じてしまうかもしれません。しかし、子どもが自分の力だけで課題を解決できない場合もあります。そのような場合、もし子どもが
はっきりと言葉で「手伝ってよ」と頼んでくれば、親は手伝ってあげることができます。たとえば、「学校の宿題がわからない」というのは、その結末が子どもの身にだけふりかかりますから、子どもの課題です。しかし、子どもが「宿題がわからない。手伝って」と相談してきたら、子どもの話をよく聴いた上で、お手伝いしてあげることができます。

2. 言葉ではっきり頼まれてから手伝う

子どもは自分の課題を解決できないのだが、言葉で頼まないで、ただ手伝ってほしそうなそぶりをするだけだったりするときには、言葉ではっきりと頼んでくれるまで、手伝わない方がいいと思います。

場合によっては、「なにかお手伝いできることはありますか？」と尋ねてみるのもいいでしょう。そうして、子どもが「手伝って」と言えば、手伝ってあげますし、なにも言わないか、あるいは「手伝わなくてもいい」と言えば、子どもにまかせます。

3. 引き受けることも断わることもできる

子どもが頼んできたからといって、絶対に引き受けなければならないものではありません。場合によっては、断わることもできます。また、部分的には引き受けて、部分的には断わるというようなこともできます。引き受けるとしても、どの程度手伝うのか、どういうことは手伝わないのかを、事前によく話し合っておきます。